(A) leaf on the roof スピンオフ #2
「つまんないおばけ」

登場人物

滝川なたね（１６） 諦観コンビニバイト
根津稔（４１） チャラコンビニ店長

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

○FRIENDSHIP 葛城二丁目店・店内

なたね、コンビニの制服を着てカウンターに立っている。
入退店音。
なたね「(小) ありがとうございましたー」
自動ドア越しの駐車スペースでビニール袋が風に舞っている。
なたね、しばしビニール袋を見つめると、小さく息を吐き、カウンターを離れ、品出しに戻る。
入退店音。
なたね「(小) いらっしゃいませー」
根津、コンビニの制服を着てカウンターの奥の部屋から 萎れた背広の中年男と 肩を抱き合いながら出て来ると、自動ドアの前で肩を叩き合い、別れる。
入退店音。
根津「(大) ありがとうございましたー」
なたね、耳を塞ぐ。
なたね「(口パクで) 声デカ」
根津、中年男の背中に深々と礼。
なたね「あの。店長。根津さん」
根津「ああ。ごめんね滝川さん。こっち任せっきりになっちゃって」
なたね「それはいいんですけど。今のって」
根津「ん？ ああ。万引き犯」
なたね「ですよね。でもなんか、お互い感極まってるみたいでしたけど」
根津「なんか話してたらさ。年も近いし。お互い似たような苦労してて。わかるよ。辛いよね。ってなってさ」
なたね「はぁ」
根津「人生いろいろあるけどお互い頑張ろうなって。よーし明日はホームランだ！ って話になって」
なたね「でも常習犯ですよね？ あの人」
根津「あー。それはー」
なたね「お巡りさんに連れてかれるとこ。私、何度か見てますけど」
根津「まぁ。それはそれとしてっていうか。ほら。よく言うでしょ？ 〈裏切られたくらいじゃ信じるは減らない〉って」
なたね「へー」
根津「だからさ」
なたね「すみません根津さん。スルーしようと思ったんですけど、やっぱりまったく聞いたことないです。それ」
根津「え？ 知らない？ 楽園戦隊シャングリラーズ 第三十七話」
なたね「はい。知らないですね」
根津「それ人生十割損してるよ」
なたね「十割。いったい私の人生はどこに行ったんでしょう」
根津「取り戻そう 人生。見よう シャングリラーズ。今日から滝川さんもシャングリアン。コンビニで。ボクと握手」
根津、手を差し出す。
なたね、微動だにしない。
根津「コンビニで。ボクと握手」
根津、手を差し出す。
なたね、微動だにしない。

根津「コンビニで」
　入退店音。
　客、出ていく。
なたね「（小）ありがとうございましたー」
根津「（大）ありがとうございましたー」
　根津、深々と礼。
なたね「根津さんは人生楽しそうですね」
根津「滝川さんはつまんなさそうだよね」
なたね「え」
根津「つまんないでしょ？　人生。死んだ目してるし」
なたね「それは（そこまで直球で返されると思ってなかった）」
根津「あ。そろそろ学校終わる時間だ。フレチキ揚げるね。シビ辛味。こっち任せた」
なたね「ああ。はい」
　根津、フレチキ（フレンドシップフライドチキン）をフライヤーに入れる。
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「どうしてシビ辛味なんて作ったんですかね」
根津「ん。苦手？」
なたね「いえ。ただ、ここで働いていると全身がホアジャオ臭くなるので」
根津「そっか。えーっと。なんか偉い人がなんちゃらって作家のなんちゃらって本を読んで思いついたって、なんかの研修で」
なたね「ヒントが何もないですね」
根津「匂いって記憶なんだって」
なたね「においは。きおく」
根津「あなたの街の頼れる友だち。コンビニチェーン FRIENDSHIP が長く記憶に残るように。ってことらしいよ」
なたね「へー」
　フレチキを揚げる音が響く。
根津「僕はちっちゃな頃から悪ガキで。１５で葛城町の暴れヌンチャクって」
なたね「根津さん。その話、長いですか？」
根津「４２分くらいかな」
なたね「ダイジェストでお願いします」
根津「よくタムロしてたコンビニの店長さんがフレチキくれて。シビ辛味。それで今がある。その人のお陰で人生楽しめてる」
なたね「へー（ちゃんと聞けばよかった）」
根津「そんな風に誰かの思い出になってたらいいなって思う。忘れてたこと思い出すきっかけになったりとか」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「意外にちゃんとした理由でしたね」
根津「滝川さんは？　なんで人生つまんないって思ってるの？」
なたね「ダイジェストでいいですか？」
根津「できたらちゃんと聞きたいかな」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「お姉ちゃんはしっかりしてて、なんでもできて。お兄ちゃんはちゃっかりしてて要領よくて。でも私はどっちでもない」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「学校に通うってことすらできなくて。逃げて。たぶん、ずーっと誰かや何かの背中を追いかける人生で」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「たぶん、ずーっと誰かや何かに追い抜かれる人生で。それがわかっちゃうから。だからつまんないなーって」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「生きてるけど生きてるだけっていうか。死んでないだけっていうか。ホントつまんないなーって。そんな感じです」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「でも。自分で自分の人生つまんないって言っちゃうのが一番つまんないのかもなー。とかも思っちゃったりもしてて」
　フレチキを揚げる音が響く。
なたね「あの。根津さん。なんか言ってもらっていいですか？　ずっとひとり語りだと恥ずいです。根津さん。根津さん？」
　なたね、根津の肩を叩く。
根津「あ。ごめん滝川さん。フレチキの音で全然聞こえなかった。なんて？」

フレチキを揚げる音が響く。
なたね「いや。だから」
フレチキを揚げる音が響く。
なたね「(小) つまんないのつまんない」
フレチキを揚げる音が響く。
なたね「(中) つまんないのつまんない」
なたね、大きく息を吸う。
根津、フレチキを上げる。
なたね「(大) つまんないのつまんない！」
なたねの声、店内に響く。
なたね「え」
根津「あ。ごめん」
なたね「いえ。全然」
根津「それ。いいと思う」
なたね「え。それ？ ってなんですか？」
根津「大きい声出すこと」
なたね「ん？ どういうことですか？」
根津「滝川さんが人生つまんないなって思うのは、つまんないおばけのせいだから」
なたね「つまんないおばけ？」
根津「そ。人生をつまんなくする、つまんないおばけ」
なたね「なんですかそれ？」
根津「いるんだよ。そういうのが。で。おばけって大きな声嫌いでしょ？」
なたね「はぁ」
根津「だから大きい声を出せば、つまんないおばけはいなくなる」
なたね「そうなんですね」
根津「そしたら」
なたね「すみません根津さん今度こそスルーしようか迷ったんですけど、やっぱり聞いたことないです。もしかして、それも？」
根津「うん。第九話。知らない？」
なたね「なんか。さすがに損してる気がしてきました」
根津「よし。取り戻そう 人生。見よう シャングリラーズ。今日から滝川さんもシャングリアン。コンビニで。ボクと握手」
根津、手を差し出す。
なたね、微動だにしない。
根津「コンビニで。ボクと握手」
根津、手を差し出す。
なたね、微動だにしない。
根津「コンビニで」
入退店音。
なたね・根津「(大) いらっしゃいませー」
左腕を包帯で吊っている男子高校生、入ってくる。
男子高校生「あのー。すみません。フレチキ。シビ辛味。お願いします」
なたね「(大) はいフレチキ シビ辛味いただきましたー」
根津「(大) はい、よろこんでー」
なたねと根津、笑顔。

〈おわり〉